

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

85-126095/21 RISUBURAN PRÖDUCTS 17.09.83-JP-170574 (13.04.85) A61k-07	D21 RISU- 17.09.83 J6 0064-907-A	D(8-B9, 9-E)	193
C85-054809 In a compsn. (I), its gelation is performed by adding 0.1-10 (0.5-5%) of an electrolyte such as a water-soluble neutral inorganic or organic salt to a 1-10 (3-6) % deoxyribonucleic acid alkali metal salt aq. soln. ADVANTAGE - (I) is stable at pH 4-8, induces no skin irritation and has excellent feel and spreadability. (2pp Dwg.No.0/0).			

© 1985 DERWENT PUBLICATIONS LTD.
 128, Theobalds Road, London WC1X 8RP, England
 US Office: Derwent Inc. Suite 500, 6845 Elm St. McLean, VA 22101
Unauthorised copying of this abstract not permitted.

⑪ 公開特許公報 (A) 昭60-64907

⑫ Int.CI.
- A 61 K 7/00識別記号 庁内整理番号
7306-4C

⑬ 公開 昭和60年(1985)4月13日

審査請求 有 発明の数 1 (全2頁)

⑭ 発明の名称 水性ゲル状化粧料

⑮ 特願 昭58-170574

⑯ 出願 昭58(1983)9月17日

⑰ 発明者 深山喬 柏市豊四季台1-1番13-206

⑱ 出願人 株式会社リストランプ 横浜市港北区新吉田町4446番地
ロタクツ

明細書

1. 発明の名称

水性ゲル状化粧料

2. 専許請求の範囲

デオキシリボ酸塩のアルカリ金属塩1~10%水溶液に水溶性の中性高濃度或いは中性の中性高濃度などの電解質を0.1~10%添加してゲル化させることを特徴とする水性ゲル状化粧料。

3. 発明の詳細を説明

本発明は、デオキシリボ酸塩のアルカリ金属塩1~10%水溶液に電解質を加えて透明な水性のゲル状基剤を作り、これに通常使用される有用性のある化粧品用配合剤を加えた水性ゲル状化粧料に関する。化粧用ローションなど化粧水類の具備すべき条件としては、

1. 安全性を保証せしめ、安全性が高いこと。

2. 容易に適用でき、使用感がよいまこと。

3. 耐候性があり、使用時無害に流れ落ちたりしないこと。

4. 経時安定性及び温度安定性がよいこと。

しかし、これらの条件を満足しうる化粧品はほとんど市販されていない現状である。

現在販売されている水性ゲル状化粧品は、界面活性剤を多量に使用したもの、及び水溶性の多分子化合物を使用したものが多いのである。

界面活性剤によってゲル化したものは、界面活性剤を多量に必要とするため、皮膚に対する刺激など安全性に問題があり、また他の有効な配合剤の溶解、分散にも問題がある。

一方、水溶性高分子化合物によりゲル化したものは、使用感などに問題があり、更に電解質の吸収による崩壊した。

域に制限があるなど、処方決定の際に問題点が多い。

特に最近は、化粧水類に動植物基剤の天然の高分子化合物、例えばヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸など陰性ムコ多糖類を含む抽出エキスや、水溶性タンパク質、ポリペプチド、或いはステロイド化合物を含む植物抽出液などを有用な配合成分として使用する化粧料が増えてきており、これら製品は比較的高価になるため、コストを下げる必要があるが、水性のゲル状化粧料として製品化する場合は、溶解性、分散性などで種々の問題点がある。

本発明者は、上記のような欠点をなくすべく研究した結果、化粧用配合成分としても非常に有用なデオキシリボ酸塩のアルカリ金属塩水溶液が塩化ナトリウムなどの電解質により容易に透明で硬度が自由に調整できるゲル状になることを発見し、これを基剤として陰性ムコ多糖類など他の有用な配合剤を加えて製品化することに成功した。

デオキシリボ酸塩のアルカリ金属塩としては、通常ナトリウム塩、カリウム塩が使用でき、水溶度の濃度は1.0~10%の範囲で、好みは3~5%がよい。

また、電解質としては、塩化ナトリウム、氯化ナトリウム、塩化カリウム、硫酸カリウムなどが使用できるが、その他に化粧品用保湿剤として有名な乳酸ナトリウム、ビスマルクルボン酸ナトリウムなどの有機酸アルカリ金属塩も良好な凝固剤として使用できる。これらは通常0.1~10%であるが、好みは0.5~3%がよい。

以上のようにして得られた水性ゲル状化粧料に他の有用な配合剤は、水溶性配合剤及び、化粧用保湿剤として保湿剤、防腐剤、香料、色素などを適量配合する。

用される化粧品のPH値4~9で重めて安定なケル状を呈し、皮膚に塗布した際、刺激は全くなく、使用感、垂れ性もよく従来品の欠点を克服し得た化粧料を作ることができる。次に本発明、水生ゲル状化粧料の処方例を示す。

配合割合は重量部である。

実施例1

デオキシリボ核酸カリウム	3.5
A 塩化ナトリウム	0.5
精製水	45.5
水溶性コラーゲンタン白	1.0
クニン酸	0.2
B 防腐剤	適量
香料	適量
エタノール	2.0
精製水	残余

デオキシリボ核酸カリウムをA成分の精製水中に加え加温搅拌して溶解し、これに塩化ナトリウムを加えて均一に溶解させる。B成分を混合溶解した水溶液を作り、両者を直時均一に混合し、攪拌すると微黄色透明でPH5の安定なゲル状化粧料が得られる。

パネルテストの結果、刺激がなく使用感のよい基礎化粧料としての評価が得られた。

実施例2

デオキシリボ核酸ナトリウム	5.0
A 乳酸ナトリウム(50%)	5.0
精製水	40.0

香料	20.0
防腐剤	適量
ニタノール	適量
精製水	残余

実施例1と同様にして透明なゲル状化粧料が得られる。

パネルテストの結果では、刺激がなく使用感のよい保湿性の高い化粧料としての評価が得られた。

実施例3

デオキシリボ核酸カリウム	5.0
A ピコリドンカルボン酸ナトリウム(50%)	5.0
精製水	40.0
植物水性油	1.0
防腐剤	適量
香料	適量
プロピレングリコール	5.0
水溶性染料	微量
精製水	残余

実施例1と同様にして透明なゲル状化粧料が得られる。

パネルテストの結果では、刺激がなく使用感のよい化粧料としての評価が得られた。

特許出願人 株式会社リスプランプロダクツ
代表取締役 山本 実

